

特別支援学級 数学の課題と授業工夫・改善案

1 生徒の学力実態

(1) 学力診断調査による分析

○ 計算

生徒個々の計算力の差が大きく、一桁の繰り上がりのある足し算が苦手な生徒もいるし、中学校2年生程度の連立方程式の計算がある程度できる生徒もいる。ほとんどの生徒がかけ算の九九はほぼ正確に覚えている。わり算も三桁割る二桁くらいの計算ができる。

○ 図形

三角形や四角形を他の図形と見分けることはできるが、直角三角形や二等辺三角形の理解は難しい。面積を求める問題は少しのアドバイスがあれば、ほとんどの生徒が正答することができる。

○ 時計

時計を見て、その時刻を答えることはほとんどできる。しかし、その時刻の20分後や1時間前の時刻を答えることは難しい。

○ テスト以外で見える学力の実態

日常生活での体験と数学の学力がなかなか結びつかない。

(例) 買い物をして複数の物を買ったときに、全部でいくらになるのか、答えられない。また、千円からいくらおつりをもらえるのかがわからない。

(例) 時計で時刻が読めても、地下鉄の時刻表を見て、何時何分の電車に乗れるのかが答えられない。

(2) 学習態度・関心意欲

・与えられた課題が理解できれば意欲的に取り組もうとするが、少しでも分からないとすぐに投げ出してしまう傾向がある。

・長時間は集中力が続かないが、目新しい教具や教材があると意欲・関心が高まる。

2 生徒につけたい力

- 日常の生活に役立つ知識や計算力
- 将来自立した生活を送るための生きていく力

3 指導工夫改善の手だて

- 計算練習を繰り返すだけでなく、文章題を多く取り入れ、問題の意味を正確に読み取る力と、その内容にあった計算式の立て方を繰り返し練習する。
- 筆算が苦手な生徒については、数直線や、ドミノ板などの目に見えるツールを用いて具体的な理解ができるように工夫する。
- 地下鉄の時刻表と時計を組み合わせ学習したり、買い物学習を実際にやってみたりして、数学の知識や理解が実生活と結びつくような工夫をする。

4 単元「買い物学習をしよう」指導計画 2時間

時	1	2 本時
内容	買い物学習のやりかたを学習しよう	買い物学習をやってみよう

特別支援学級 数学科本時案

(1) 単元名 「買い物学習をしよう」

(2) 本時の指導観

生徒達が日頃ドリルなどで身に付けている計算力が、日常生活でのお金の計算をする場面では生かされない実態がある。本時は生徒達がいろいろな店で品物を選び、代金がいくらかを計算して、支払いまで行う。「なにをいくつ買ったから代金がいくらになる。」「おつりはいくら。」などと日頃学習している計算問題と日常の体験を結びつけて考えさせる。

(3) 主眼

- それぞれの店で買いたいものを選び、代金を計算し、お金を支払い、おつりを受け取るという実生活で今後体験するであろう場面で、計算、代金の受け渡しまで正しくおこなうことができること。
- 客、店、それぞれの立場で、買い物や販売が正しく、きちんとできること。

(4) 準備 品物, お金(模型), 買い物記録簿

(5) 展開

学習活動・学習内容	学習形態	指導上の留意点	指導工夫改善の手だて 評価	配時
1 本時のめあてを確認する。	一斉	・正しく買い物をするためにどんなことが必要か、考えさせる。		10
正しく買い物をしよう。				
2 例題をする。 ・買い物の代金計算	個	・式の立て方を考えさせる。 ・買い物のルールを説明する。	欲しいものを必要なだけ買い、正しく代金を支払えるように適切にアドバイスする。(客側)	25
3 買い物のロールプレイをする。 ・店員と客で交代	ペア	・必要に応じて適切にアドバイスする。	適切に客と対応をして品物を売り、正しく代金を受け取れるよう適切にアドバイスする。(店側)	
4 まとめ ・買い物記録簿に記入	個	・品物と値段が正しく書けるよう机間指導しながら点検する。	表：買ったものと値段、使ったお金が正しく記入できる。 プリント分析	15